

支部学術集会開催報告

第9回沖縄県支部学術集会

学術集会会長：琉球大学医学部附属病院病院長 大屋祐輔



会場風景

2019年1月26日(土)大浜第一病院あめくふれあいホールにおいて、「沖縄の医療安全を地域・チームで推進しよう」をテーマに、第9

回沖縄県支部学術集会を開催しました。

特別講演では、北里大学医学部附属新世紀医療開発センター、横断的医療領域開発部門、侵襲制御・生体危機管理医学(集中治療医学)の新井正康先生をお招きし、「院内急変を未然に防ぐ～RRSの考え方、導入と継続のアイデア～」と題してご講演いただきました。

また、ポスター展示・発表9題、クリティカルパス展示6題は、多職種の応募があり、各々の施設、其々の視点での取り組みについて発表が行われ、100名を超える参加者の有意義な研鑽の場となりました。

最後に本学術集会開催にあたり、ご協力を賜りました関係各位に深く感謝申し上げ開催報告といたします。

第16回京滋支部学術集会

学術集会会長：公立甲賀病院院長 清水和也

2019年2月16日(土)、京都テルサにおいて第16回京滋支部学術集会を開催いたしました。テーマは「つながりみんなの輪～メディカルスタッフが病院を動かす～」とし、特別講演・シンポジウム・ランチョンセミナー(3題)・一般演題(85演題)につき講演と発表が行われました。

特別講演は、立命館大学OIC総合研究機構 福島公明客員教授に高齢化社会と患者中心の医療の関係についてお話いただきました。

シンポジウムは、テーマを「災害が起こった時、病院はどう動く」とし、病院が被災した際、どのようなことが発生し、どのような対応に迫られるのかを、3名のシンポジストの方々に実体験をもとにお話いただき、その後来場者を交えての質疑応答を行いました。その他の発表もすばらしく、おかげさまで非常に内容の濃い学術集会となりました。

ご参加いただきました皆様、開催にあたりご協力いただきました皆様には、厚くお礼申し上げます。

第13回兵庫支部学術集会

学術集会会長：西脇市立西脇病院病院長 岩井正秀

2019年2月17日(日)に西脇ロイヤルホテル・西脇市立音楽(アピカ)ホールを会場として、日本医療マネジメント学会第13回兵庫支部学術集会を開催いたしました。



会場風景

本学術集会では、メインテーマ「住み慣れた地域を護る絆と医療マネジメント～ヘソノオから看取りまで～」を掲げ、今、私たちが住み慣れたこの地域で、安心して出産でき、胎児より生まれ成長し、青年、壮年、老年を経て人生の最終段階を迎えることができるのか、地域医療がどうあるべきなのかを検討するため、医師や看護師をはじめとする医療従事者に一堂に会していただき、数多くの優れた知見を演題として持ち寄っていただきました。

特別講演3題、一般演題(口演)158題、ランチョンセミナー4題という非常に充実したプログラム内容で開催し、来場者数は、533名となりました。

本学術集会を無事、盛会裏に終えることができ、開催にあたりご支援、ご協力をいただいた皆様に厚くお礼を申し上げます。

第12回大阪支部学術集会

学術集会会長：大阪府立病院機構大阪国際がんセンター
名誉総長 堀正二

2019年3月2日(土)大阪国際交流センターにおいて第12回大阪支部学術集会を開催しました。「超高齢社会を支えるー医療チームマネジメントと地域連携」のテーマのもと「医療チームマネジメントと地域連携」と題してシンポジウムIを企画し、医療チームの各職域から地域連携の課題を討論して頂きました。シンポジウムIIでは、高齢者を支える医療マネジメントとして高齢社会における救急医療、がん医療、在宅リハビリ、認知症、栄養管理を取り上げました。特別講演は「2025年病床機能分化にいかに対応するか」(加納繁照)及び「フレイルと向き合う超高齢社会」(荒井秀典)の2題とし、最近のトピックスをお話頂きました。教育講演は「AI・ロボットにより医療はどう変わるか」(佐久間 一郎)について興味深い講演を頂きました。また、一般演題は133題と多くの発表を頂き、ランチョンセミナー5題、